

音楽科学習指導案

令和 7年 10月 7日(火) 第2校時
中学校 第2学年 組名 場所:音楽室
指導者

1 題材名 曲の構成や曲想の変化を生かして合唱しよう

2 題材の目標

- (1)「夢の世界を」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
- (2)テクスチャや構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夢の世界を」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3)「夢の世界を」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに仲間とともに歌う楽しさを味わう。

3 教材

「夢の世界を」

芙龍 明子 作詞 橋本 祥路 作曲

4 題材について

(1)生徒の実態

本学級の生徒は、明るく元気な生徒が多い。音楽科の授業においても意欲的であり、自ら音楽を楽しもうとする姿が見られる。歌唱の授業では、表現の工夫を個人で考えた後に全体で共有し、それぞれの歌いたいイメージを大切にしながら取り組んできた。また、曲想と音楽の構造について理解し、歌詞の内容から自らがイメージした情景をどのように表現すべきか試行錯誤しながら取り組み、歌唱表現の工夫をさらに高めようとする姿勢も見受けられ始めた。「夢の世界を」は、中学校に入学して初めての合唱曲である。この学習を通して、他者の意見を取り入れながら仲間とともにハーモニーをつくる楽しさを味わい、創意工夫した歌唱表現ができるように、学びを深めていきたい。

(2)教材について

本楽曲「夢の世界を」は、小学校の音楽科の授業で歌われることも多く、親しみやすい旋律である。また、前半 A (斉唱)と後半 B (混声三部合唱)で構成されており、音楽を形づくっている要素であるテクスチャや構成に着目しやすい。また、曲想からイメージしたことに合わせて、後半 B (混声三部合唱)のハーモニーが創意工夫によってどのように変わっていくか、声部の役割についても考えながら学習を進めることができる教材である。

(3)指導に当たって

本楽曲では、曲の構成や曲想の変化について感じ取り、各声部の役割を意識し、創意工夫を生かした表現で他者と合わせて歌う楽しさを味わわせたい。その際、どのように表現を工夫するかについて思いや意図をもたせ、パート練習や、演奏の振り返りをする中で積極的に意見を共有し、他者のイメージに共感しながら考えを深めていく学習態度を育てたい。また、歌唱を録音し、確認する活動を取り入れることにより、自ら課題を見つけ、表現の工夫を考えることで、さらに創意工夫を生かした歌唱表現につながることをねらい、本題材を設定した。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 A表現 (1) 歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

[共通事項]

(1) (本題材において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「テクスチャ」、「構成」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知「夢の世界を」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p> <p>技創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。</p>	<p>思テクスチャや構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夢の世界を」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態「夢の世界を」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画(本時 3/4 時間)

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価 (◆評価方法)		
		知・技	思	態
1	◎「夢の世界を」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ●楽譜を見ながら範唱CDを聴き、旋律の動きや曲想、歌詞の内容を感じ取る。 ・範唱CDを聴き、1番と2番を歌う。 ・歌いながら体を動かしたり指揮をしたりして8分の6拍子の特徴を捉える。 ・歌詞を朗読し、歌詞の表す情景について考える。 ・楽曲全体のまとまりを理解する。 ・各パートの旋律を確認し、パート練習をする。			
2・3 (本時)	◎声部の役割と全体の響きとの関わりについて考え、表現を工夫する。 ●歌詞と強弱の関わりを理解して、楽曲全体の音楽表現を創意工夫する。 ・歌詞と強弱との関わりについて、気付いたことをワークシートに記入し、全体で共有する。 ・歌詞と強弱との関わりを確認し、イメージに合った表現を工夫するために必要な発声や身体の使い方などを考える。 ・パート練習をする。 ●テクスチュア、構成を知覚し、曲全体の音楽表現を創意工夫する。 ・テクスチュアや曲の構成に着目し、前半[A]と後半[B]を聴いたり歌ったりして、曲想の変化を全体で共有する。 ・各声部の役割と全体の響きとの関わりを確認し、パート練習をする。 ・パートに分かれて互いの演奏を聴き合う活動を通じて、自分たちで考えた表現の工夫が合唱に活かされているのか話し合い、歌い方を工夫する。 ・これまで学習した内容を生かしながら合唱をし、録音する。	知 ◆ワークシート	思 ◆観察 ◆ワークシート	
4	◎創意工夫を生かして合唱をする。 ●よりよい合唱にすることを目指し、曲にふさわしい音楽表現を工夫する。 ・前時の録音を聴き、よりよい合唱にするためにはどのような工夫をすればよいか話し合い、全体で共有する。 ・全体で共有したことをもとに、パート練習をする。 ・パートごとに練習したことを生かしながら合唱をし、再度録音をする。 ・録音を聴き、前時の録音と比較して改善された表現を確認する。	技 ◆観察 ◆演奏		態 ◆観察 ◆ワークシート

8 本時の学習

(1)目標

【A(斉唱)とB(混声三部合唱)の曲想の変化を感じ取りながら、表現を工夫して歌う。

(2)展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準	◆評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○前時の振り返りをする。 ○前時で考えたことを、思い出しながら合唱させる。 ○本時の目標を伝える。		
曲想の変化を感じ取りながら、表現を工夫して歌おう。			
2 曲を聴き、【A】と【B】の曲想の変化を感じ取る。	○【A】と【B】の曲想の変化について気付いたことをワークシートに記入し、全体で共有する。 ○表現の工夫を考え、ペアで話し合う。		
3 パート練習をし、確認をする。	○【A】と【B】の表現について、それぞれの部分の特徴を生かして工夫するよう助言する。 ○楽譜に新たな表現の工夫を加筆するよう伝える。 ○ペアで考えた表現の工夫をパートで共有する。 ○表現を工夫しながらパート練習をする。 ○パートで考えた表現の工夫をホワイトボードに記入する。		
4 パートごとに考えた表現の工夫を発表し合う。	○各パートで考えた表現の工夫を発表する。		
5 全体で合唱する。	○曲想の変化を感じ取りながら、「夢の世界を」を合唱させ、タブレットを使い、録音する。	◇テクスチャや構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夢の世界を」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【思・判・表】	◆活動の観察 ワークシート

(3)評価及び指導(手立て)

(思考・判断・表現)

A (十分満足できる) と判断される具体的な状況	感じ取った曲想の変化から声部の役割や全体の響きとの関わりについて理解し、自分なりの思いや意図をワークシートに書き、どのように工夫して歌いたいかについて発言し、表現しようとしている。
B (おおむね満足できる) の状況を実現するための具体的な指導(手立て)	感じ取った曲想の変化を理解し、他者の考えを共有しながら自分の意見に近いものをワークシートに記入し、思いや意図がもてるように促す。